

審査経過報告

優美堂再生プロジェクト実行委員会

令和2年11月に実施した普請部門二次審査で継続審査となっていた「優美堂再生プロジェクト実行委員会」は、後日追加で提出された資料を基に審査会で審査した結果、助成条件を付帯したうえで助成を決定しました。

新型コロナウイルスの影響もあり、工期が遅れているとのことですが、竣工した際には、アーティストの皆さんをはじめとした、地域の交流の拠点としての活用が期待されます。



賛助会員一覧

法人会員

建設業	株式会社楠山設計 株式会社久保工 株式会社竹中工務店 (一社)東京都建築士事務所協会千代田支部 株式会社ナカノフドー建設 株式会社日昇緑化研究所 パシフィックコンサルタンツ株式会社	不動産業	エヌティティ都市開発株式会社 住友不動産株式会社 東京建物株式会社 プラットフォームサービス株式会社 三菱地所株式会社 安田不動産株式会社
製造業	KKテクノロジーズ株式会社 瀬味証券印刷株式会社 東京スクリーン株式会社 株式会社日精ビアー ノーラエンジニアリング株式会社 株式会社ハセツパー技研 ハネクトーン早川株式会社 富士フィルムビジネスソリューション株式会社 株式会社ムレコミュニケーションズ	サービス業	株式会社i-tec24 株式会社弘周舎 株式会社こどもの館 株式会社翔設計
卸売・小売業	鈴木治作株式会社 鈴新株式会社 株式会社つばさテクノ 株式会社トキワ 株式会社ユニフォームネット	その他	株式会社アズーム 株式会社イサミヤ 合同会社グローバル人材育成サポート 株式会社コンベンションリンケージ 株式会社住宅あんしん保証 株式会社TALO都市企画 一般社団法人 千代田区観光協会 東洋美術印刷株式会社 NPO都市住宅とまちづくり研究会 日産緑化株式会社 株式会社バイオレンジャーズ ピوندネクストアカウンティング株式会社 株式会社フィレール 一般社団法人マンション管理組合支援センター 株式会社リブリッジ 株式会社ワンスイン 株式会社And Technologies
情報通信業	株式会社メディアリンク		
金融業	株式会社きらぼし銀行神田中央支店 興産信用金庫 西武信用金庫神田支店 みずほ信託銀行株式会社		
保険業	株式会社FEA ぜんち共済株式会社 日新火災海上保険株式会社 東京事業部 東京西支店		
		個人会員	池 俊郎 加藤 武夫 小林 誠 佐藤 直樹 瀬川 昌輝 立山 光昭 戸田 豊重 堀部 剛正 ほか6名
			法人：56 個人：14 計：71

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。

# 千代田まちづくり サポート通信



[目次]

- P1~2 事業・発表会概要
- P3~13 助成グループの発表概要
- P14 卒業グループ・サポート大賞  
まちブラからのお知らせ
- P15~16 審査会委員のコメント
- P17~18 活動マップ



# 一年の活動成果！

# ちよだのまちづくり！

# Chiyo da No Machi s a p o

千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、千代田区内で自主的なまちづくり活動を行っているグループに対して、その活動経費の一部を助成する事業です。

本号では、第20回千代田まちづくりサポート活動成果発表会の内容を紹介しながら、千代田のまちづくりの「いま」を伝えます。

コロナ禍において活動が大きく制限される中、オンラインを活用したイベントを開催するなど、各グループの工夫を凝らした取り組みが発表されました。



## Schedule 事業スケジュール

応募グループ(はじめて部門を除く)が活動内容の発表を行い、それに対して、審査会委員との質疑応答を行います。その後、助成対象とするグループと助成額を審査会が公開の場で審査・決定します。

助成対象期間の中間における、活動の経過報告を行います。また、普請部門一次審査を通過した応募グループが整備計画や建物の活用方法などの提案発表を行い、助成額を審査・決定します。

活動報告書に基づいて、一年間の活動報告を行います。また、審査会委員と助成グループの投票で「サポート大賞※」を決定します。

※助成グループの中で特に優れたまちづくり活動を行ったグループを決定するもの



## 第20回千代田まちづくりサポート活動成果発表会

【開催日】 令和3年4月18日(日)  
【会場】 ちよだプラットフォームスクウェア5階(一般には非公開)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「Zoom」を活用してオンライン形式で開催しました。



### Program

- 13:00 開会  
審査会委員紹介、発表会概要・スケジュール説明
- 13:20 活動成果発表①  
5グループ(各グループ10分)
- 14:10 休憩
- 14:20 活動成果発表②  
4グループ(各グループ10分)
- 15:00 休憩
- 15:10 普請部門年度報告  
3グループ(各グループ15分)
- 15:55 普請部門審査経過報告
- 16:00 審査会員講評
- 16:20 事務連絡
- 16:25 卒業グループ卒業式、サポート大賞発表
- 16:40 まちプラからのお知らせ
- 16:50 閉会

### 審査会委員

- 会長 なかじま なおと 中島 直人  
東京大学大学院工学系研究科 准教授・博士(工学)
- 副会長 おくむら けん 奥村 玄  
株式会社GENプランニング 代表取締役
- 委員 あさひな 朝比奈 ゆり  
東京ボランティア・市民活動センター 専門員
- 委員 かきうち けんすけ 柿内 健介  
千代田区青少年委員
- 委員 おの であら たけし 小野寺 健志  
元千代田区青少年委員
- 委員 よしだ わたる 吉田 渉  
興産信用金庫 お客様支援部 成長支援担当課長
- 委員 きくち ひろみつ 菊池 洋光  
千代田区 コミュニティ総務課長

### 助成グループ一覧

部門	回数	助成グループ名	ページ
はじめて	-	01 トナリ	3
		ドコヒロ隊(DoCo22を広めよう隊)	-
		02 M. Alive Place	4
一般	1	03 「着がえる家」実行委員会	5
	1	04 神田でバンダ	6
	1	05 スプーン・プロジェクト	7
	2	06 グリーンネイバーフッド千代田を目指す会	8
	2	07 ちよとも	9
	3	08 江戸長唄ごひいき衆	10
	-	09 海老原商店を活かす会	11
普請	-	10 秋葉原・旧旅館【東館】内 ちよだニャンとなるCafé	12
	-	11 「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム	13

※「ドコヒロ隊」は発表会当日欠席



# 01

## トナリ

### こどもワークショップ 「こどもかいき わたしたちでつくるまち」



【代表者】 曾根 博美 【活動メンバー】 9名 【主な活動地域(場所)】 アーツ千代田3331

#### 活動概要

トナリはアーツ千代田3331の中にアートスタジオを開設し、人をケア・サポートするアートの場の創出を目指している。プレスタートにあたるこの活動は、自分たちの住む千代田区エリアについて、子どもたち自身が思い考えている意見を聞き取っていく。さらに仕事・自然環境・生き物・交通・建物・学校などについて考える基地を提供し、実際に描画・工作でまちをつくる。



#### 発表概要

トナリは、主に造形そして表現活動を通じて個人の力(生きる力)を強くすることを目的とした団体です。何かあった時にも表現を通じて、自分を強く持つことができる力を育てること、また、つながりを持つことでコミュニティを強くすることを信念として活動しています。

今回は子どもを対象にしたワークショップを行いました。当初は街に出るの活動を考えていましたが、コロナの影響もあり、アーツ千代田3331の中で実施しました。8月に3日間、人数制限を設けて開催し、合計で28人が参加しました。内容としては、一つの空間で街を作り、毎回新しくするのではなく、前の子どもたちが作ったものに、次の回の子も子どもたちが足していくことで一つの街を作るというものです。作成する前に、子ども会議というものを行い、みんなでどういう街にしたいかなどを話し合ってもらっています。街を作る材料は段ボールや毛糸など身の回りにあるもので、子どもたちが家で続きができるよう工夫しました。出来上がった街は、展覧会という形でいろいろな人に見てもらいました。

また、家族とのコミュニケーションのきっかけとして、ミッションシートというものを使用し、自分たちの作品について家族と話し合ってもらいました。残念ながら作品は解体しましたが、映像などできるだけ記録を取りました。

コロナの影響で街に出ることができず、千代田区とのつながりを考えるという意味では難しかったです。今後は、今の状況だからこそできるやり方を考えつつ、並行して可能な限り街に出るワークショップを実施していきます。参加者のアンケートでは、継続して行ってほしいとか時間を長くしてほしいなどの意見があったので、今後も活動を続けて認知してもらいたいです。

展覧会の際にカウンセリングルームもやっています。子育てのことだとか、コロナで学校に行けない間の家で過ごす仕方などを話し合っています。ちょっと寄れる場所という意味で「トナリ」という活動を、表現活動と並行して進めています。

#### Q & A



Q 私も都市計画に関わっているが、小さいころ砂場で街を作ったりしたことが原点なので、今回の試みから、将来的に都市計画に関わる人が増えたら良いなと思います。一つ質問で、コロナが続くとして、今回開催した場所以外でも活動はできますか。

A 今回実施する中で、自分たちなりに安全対策の基準を経験の中で見つけることができました。今後はその可能性を広げていきたいと思っています。

Q 報告書に、今後拠点を設けてセラピーやワークショップを実施したいと記載がありますが、具体的な進め方を教えてください。

A その場所に行けば誰かに相談できる場所を作りたいという思いで活動しています。セラピーは、専門的なものではなく、表現を使って気持ちが落ち着くような、不安が少しでも和らぐような活動をする場所を作りたいです。来た時よりも気持ちが落ち着いて、安心して家に帰れるような場所を作るのが今後の目標です。

# 02

## M. Alive Place

### 住民主体のワークショップを通じた、 千代田の都市空間活用の実践



【代表者】 北村 駿季 【活動メンバー】 13名 【主な活動地域(場所)】 神田エリア

#### 活動概要

大学のサークルで検討した都市空間活用の企画をもとに、住民が主体的に設置物(ストリートファニチャーなど)の制作過程に関わるワークショップを実施し、千代田の都市空間、公開空地で実践する。企画は、学生の自己満足ではなく、住民が主体性を発揮する内容をめざす。



#### 発表概要

住民主体のワークショップを通じた、千代田の都市空間活用の実践をテーマとして活動してきました。神田古書店街の魅力の人々に伝えて、文化の持続性に貢献することを目的に、地域に根ざした活動を行い、これからの都市空間のあり方を模索することが目標です。具体的には、各店舗の個性ある古書を手それぞれの嗜好に合わせて届け、今だからこそ出来る体験価値の提供や質の高い情報発信を行うことを目的とし、中長期的なファンの獲得につなげたいと考えています。

一年間の活動実績としては、神田の古書店街のフィールド調査と情報発信活動を行いました。まず、神田に詳しい方や実際に活動している方に話を伺い、地域の現状や課題の洗い出しを行いました。その中で、人とのつながりが生まれ、その重要性を学びました。また、実際のお店の雰囲気を確かめるために、全てのお店を回り古書を購入して、利用者の視線を体感することを意識しました。活動内容はInstagramを中心に情報発信しました。さまざまな方からコメントをもらい、愛されるまちの条件として、人と人とのコミュニケーションとか文化や物を介した思いの共有が重要だということが分かりました。

続いて、都市空間活用企画として、実際の公共空間で木製パレットを加工したストリートファニチャーを用いて、空間活用企画の実現を目指しました。しかしコロナの影響もあり、試作品の製作にとどまりました。

活動の中でうれしかったことは、SNSを通じて、活動に対する感想や応援を多くもらうことができたことです。また、フィールド調査を行う中で、お店の方から喜びや感謝の声をもらうことができ、やりがいを感じました。

活動に対する評価は、自己評価だが満足のいくものではなかったです。しかし、学びとして、まちづくり活動は外側から見るのと、自ら実践するのではかなり見え方が異なることを知ることができました。持続的に関わることの重要性も体感でき、小さなことでも少しずつ関係を作っていくことが、地域に貢献する活動として重要であると実感しました。これからの活動次第では老若男女問わず楽しめる企画を実現できるのではないかと考えています。

#### Q & A



■ 活動の例として人が集まる場所、カフェやバー、レストランなどに古本を置いてミニライブラリみたいなものを作るのも良いと思います。次年度以降、具体的な活動ができることを期待します。

■ 古書店の中に限らず、まちの中のあちこちに本を読む人がいる風景を増やすことができれば良いと感じました。再開発が進んでおり、屋外空間が充実してきていると思うので、そうした空間を活用することができれば良いと思います。場を共有することでコミュニケーションの最初の一步を作れるのではないかと思います。若い皆さんの発想に期待します。

Q データや資料は書面などで引き継ぐことができるが、人間関係を引き継ぐのは難しいと思います。この点を工夫して引き継ぐことが、継続的な活動につながると思います。現時点で何かアイデアなどはありますか。

A イベントを運営する過程の中で、次回のメンバーと地域の方をつないでいけたら良いと考えています。



# 03

## 「着がえる家」実行委員会

海老原商店での装いとコミュニケーションをテーマにしたワークショップ「着がえる家」の実施



【代表者】 穴戸 遊美 【活動メンバー】 3名 【主な活動地域(場所)】 海老原商店(神田須田町2丁目)

### 活動概要

「生活と装い」「住み開き」「新しい古着屋」をキーワードに、来年度の「東京ビエンナーレ2020/2021」会期中、新たに「海老原商店」で期間限定の住み込み型のプロジェクトを展開する。具体的には、(1)常設展示(2)ワークショップ(3)店舗という3つの要素でプロジェクトを行う。



### 発表概要

海老原商店で装いとコミュニケーションをテーマとしたワークショップ「着替える家」を実施してきました。コロナの影響で当初の計画からは内容を変更しつつ試行錯誤しました。活動内容を4つのトピックとして報告します。

一つ目は、8月29日のワークショップ「感覚の洗濯」のテスト実施です。この時点では、今後のコロナの影響が分からなかったため、実施方法を含めて検証しました。テストでは、洗濯物のセットをリアカーに積み、秋葉原の街を走らせて、海老原商店に向かいました。洗濯をした後に外に干す「洗濯の展示」に、かなり苦戦しました。窓ガラスに洗濯紐を吊ったり、はりを渡したり試行錯誤しました。

二つ目は、10月17日から18日の二日間実施した「感覚の洗濯」の本番です。前回の検証を生かして、器具を作り、実際に干しました。ワイヤーを張り、そのワイヤーを滑らせることで手前にひっかけた洗濯物を奥に押し出していき、海老原商店の側面に洗濯物を干しました。器具を活用したおかげでスムーズに干すことができました。洗濯物を干している景色を描くということもやりました。洗濯物が乾いたらそれに着替えて、みんなでポーズを取って写真撮影も行いました。

三つ目は、11月28日の「ちびっこテイラー」というワークショップです。小学生から中学生の子どもたち4名が参加しました。コロナの影響もあり人数を絞って参加者を募りました。内容としては、子どもたちが新たな服をデザインして作るというものです。子どもたちそれぞれが作ったオリジナルの服を着て、最後に記念写真を撮りました。

四つ目は「いただ着ます」というワークショップです。服に見立てた食材とその食材を連想する服を材料として、リモートでプレゼンなどをしました。緑のものは緑の服とか紫の芋はえんじ色のスカートといった感じです。それを調理してお昼ご飯を作り、みんなで食べました。完成した服をそれぞれで見せあい、写真を撮りました。

これらの活動を2021年の夏につなげたいと考えています。

### Q & A



Q 中間発表会の時にZoomで参加したお子さんが自分で作った古着をすごくうれしそう顔を見せてくれたことを覚えています。その後作った服はどうなっているか、また、子どもが今どのように過ごしているか、分かれば教えてください。

A 作った服は子どもによっては持ち帰ったり、置いていたりしています。今後は、その服を販売することを考えています。誰かに着てもらうために作っているので、その服を誰かが買って楽しむという形にしたいです。子どもたちのその後は把握していませんが、今年の夏も「ちびっこテイラー」としてお客様に提供できる服を作れるように育てたいと思っています。

Q 報告書の活動に対する外部評価のところ、海老原商店から近くにある「千代田せいが保育園」の協力もあったとのことだが、どのような経緯で地域の方に協力してもらえたのか教えてください。

A 実際の活動としては、私と西尾さんが中心になっているが、ファシリテーターとして関係してくれている方に地元コミュニティとつながりのある方がいます。そうした方が声をかけてくれました。次回はコロナ対策を万全にしつつ、もっと広くどなたでも参加できるような形で実施したいと考えています。

# 04

## 神田でパンダ

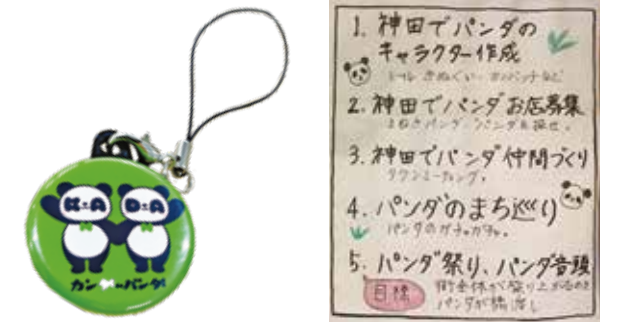
「神田でパンダ」  
神田のまちをパンダで盛り上げよう



【代表者】 石垣 曜子 【活動メンバー】 8名 【主な活動地域(場所)】 神田錦町キンキン広場、神田警察通りなど

### 活動概要

“STAY HOME”によりマンション住民の方々は地域の絆の重要性に気付き、地元企業の方も地域への責任を感じていると思います。その中で、パンダというイメージキャラクターを作り、遊び心をもって街のさまざまな場所に広めることによって、神田の街を盛り上げます。



### 発表概要

前半の活動として、イベントを何回か実施する予定だったが、コロナの影響で実施できませんでした。キャラクター投票はインターネットで実施し、中間発表会の時に結果を発表しました。投票数は476票で神田在住・在勤ではない人からも投票がありました。10代~60代とかなり幅広い方から投票してもらいました。キャラクター投票の実施にあたり、チラシの配付やポスターの掲示を小学校や飲食店、警察署などいろいろなところに協力してもらいました。パンダの白黒つながりで警察署も協力してくれました。本当に幅広い形で皆さんから応援の声をもらいました。パンダというキャラクターを設定しましたが、非常に高い関心を寄せられていると感じ、自信につながりました。

年度の後半に向けてメンバーで企画を検討する中で、神田在住の方から提案があり、広場にパンダのアートを置くというミニイベントを行いました。コロナの影響もあり、事前に広報は行わなかったが、通りがかりの方が関心を持って話しかけてくれました。こうした出来事もあり、まち歩き企画を行うことにしました。対面で話すことがあまりできないため、FacebookやInstagramなどSNSを活用して情報を発信しました。実際にイベントがあったら参加したいなどのコメントをもらうことができました。

まち歩きイベントの実施に向けて、パンダマップの作成に取り組みました。グーグルマップを活用しておもしろさを出しながら進めました。企画を充実させるために、審査委員会の方からアドバイスをもらったように、パンダのスポットをどのように選ぶか、リモートワークの方や歴史巡り、アート巡りなどテーマに沿った場所のリストアップを行いました。実際に3月にイベントを計画していたが、コロナの影響で実施できませんでした。企画内容はある程度詰められているので、夏ごろに向けてイベントを実施したいです。参加賞ということで、協賛企業の協力もあり、ストラップを作成することができたので、今後につなげたいです。

### Q & A



Q 全体の活動にユーモアを感じます。活動はもちろん真面目なもので、まちのことを考えているが、活動の一つ一つにユーモアを盛り込んでいると思います。チームの話し合いを活発にするための工夫のようなものはありますか。

A LINEでグループを作って、何かアイデアがあれば気軽に話し合うようにしています。

魅力的なキャラクターデザインで、神田でパンダのステッカーやグッズなどをお店に置いてもらうのもおもしろいと思います。それを見た方が、この地域ではこんな活動をしているのだと知ってもらうことで、活動が盛り上げれば良いと思います。活動資金の確保にもつながると良いですね。

精力的に活動されていて、いろいろなところで活動の様子を目にする機会があります。キャラクター投票のときの熱をそのままに、全国に神田のパンダを広めてください。



05

# スプーン・プロジェクト

## おしえて！世界のおうちごはん



【代表者】原田 つぐみ 【活動メンバー】6名 【主な活動地域(場所)】インド大使館など

Designed by Freepik

### 活動概要

各国大使館からの協力を得ながら、東京で暮らす外国人コミュニティとの連携を図り、近所で気軽に参加できる国際交流の場づくりを目指して活動を行っている。また、食という誰もが毎日関わるテーマを起点として、大人も子どもも楽しめる学び、地域と世界とが深くつながるきっかけを提供する。



### 発表概要

食を通じて人と地域、人と世界が繋がれば良いなと思い、去年から活動を続けてきました。今年は、文化的なコンテンツとして、世界を見る、聞くといった内容を加えて活動をパワーアップさせました。

二回目の活動として、コロナの影響もありましたが、一貫してやりたいことが見えてきました。昨年は大使館の方を中心に展開したのに対して、今年は地域の飲食店で働く日本人女性を中心にプログラムを作成しました。去年はイスラエル、今年はインドと、地域は異なるが、人が行き来する文化が多様な場所を今年も選びました。

去年は実際に集まり、地域の人々までご飯を食べる楽しい時間を提供できました。今年はコロナの影響で集まることができませんでしたが、Zoomを活用して、できるだけ参加者同士が繋がりを、臨場感を出せればと思い、録画映像を配信しました。世界で一番食されている小麦が、地域によりいろいろな味わいがあると伝えられたらと思いました。去年は手探りの状態で活動しましたが、スプーンで子どもに何かを食べさせるイメージが頭にありました。インドでは手で食べるので、手で作ること、コロナで触れ合える機会が減っているので、みんなでつながることをイメージしました。

イベントをして楽しかったなというだけでなく、何か形に残したいと思い、昨年はストーリーブックを作成して配布、今年はスパイスキットを配りました。地域で買い物をする楽しさを知ってほしくて、地域の飲食店や小売店と協力して実施しました。イベントを実施する際に大切にしたのはメッセージ性や次につながるブランディングをすることです。そのため、ホームページにポエム調のメッセージを載せました。まちづくりとして実現したかったことは、地域の魅力を発見、そばにおもしろい人がたくさんいて、食でいろいろな人とつながることができることを知ってもらうことです。人は楽しそう、おもしろそう、おいしそうというものに惹かれるので、ホームページでの発信を来年は強化していきたいです。

活動の写真を思い出としてInstagramにアップしています。活動後は疲れて来年はできないかと思うが、こうした写真を振り返ると来年も活動したいと思えます。来年はメキシコをテーマに活動したいです。

### Q & A



**Q** 起点となる方とどのように関係築いたのを知りたいです。また、LINEでつながった人数が分かれば教えてください。

**A** 偶発的な出会いが多いです。今年は、去年手伝ってもらったベーカリーの方にパンの提供を依頼したら、インドで修業した人がお店にいることが分かり、メニューの作成をお願いできました。話すことで道が開けると感じました。LINEのリーチ数は69名です。去年人数制限で参加できなかった方から連絡があり、今年参加してくれました。まちみらいニュースを見て参加してくれた方も多かったです。

**Q** 旅の目的はやはりいろいろな文化に触れたいということだと思います。旅ができない時代だからこそ、こうしたイベントで子どもたちも貴重な経験ができたと思います。共有したいノウハウとして、「気楽に考える」を挙げた理由を教えてください。

**A** 理想や実現したいことがあるから皆さん活動していると思いますが、理想が高すぎると身動きが取れなくなってしまうことが自分にもありました。無理だったら諦めるぐらいの気持ちで肩の力を抜いてやるとうまくいくこともあると思います。本当にうまくいかなかったら、ほかのアイデアや人が助けくれたりするので、助けてもらえる人になるという意味でも気楽にやっていきたいと思えます。

06

# グリーンネイバーフッド千代田を目指す会

## withコロナの中、千代田からサポートが必要な人たちも参加できるイベントを発信する



【代表者】林 昌明 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】日比谷公園など

### 活動概要

千代田区内で五感が違う人たちが参加する自然観察会を開催します。事前にレクチャーできるものはZoom、Web等を活用して、当日の接触を減らします。また、当日の参加者のサポートルールを事前に構築します。



### 発表概要

3月13日にワークショップを実施しました。午前中にコミュニケーションワークショップ、午後に日比谷公園周辺の散策を行う予定でしたが、荒天のため雨天プログラムに変更しました。場所は日比谷図書館を使いました。参加者はWebで3名、リアルで12名の合計15名、うちサポートが必要な方は7名でした。お互いのことを知るための表現方法として、サポートする側、される側どちらにもコミュニケーションの技術が必要になります。Webで参加する方は一人一台端末を用意、リアルで参加した人々には漫才のようなものをしてもらいました。片方が宇宙人として好きに話してもらい、もう片方が通訳として、自分なりに解釈をして話をするというプログラムです。

また、目をつぶった人とコミュニケーションをとりながら先導するというプログラムを行いました。午後は雨天のため、日比谷公園周辺の自然について学びました。UDトークというアプリを使えば、言葉が不自由な方でも、パソコンで入力した言葉がZoom上に表示されるのでコミュニケーションをとることができます。

運営の工夫として、募集チラシには多様な方に参加してもらうため「事務局でできるサポートは限られており、参加者同士でサポートしてほしい」ということを記載しました。リマインドメールの中で最寄り駅からのサポートが必要かを確認しました。

コロナ禍の工夫としては、当日来ることができなくても、別の日に日比谷公園を散策して楽しめるように共立女子大学と協力してアプリを作成し、クイズラリーを作成しました。どこでもクイズに挑戦できますが、GPS機能を使って現地に行かないとクイズに答えられないようになっています。また、アプリ上で簡単に写真を共有できるので、ここにエレベーターがあったとか、階段があり車椅子での移動が難しい、といった情報を共有できるようにしました。

全体に共有したいこととして、Webとリアルのハイブリッドで工夫して活動を行うことで、時間や場所、得意の五感の違いの壁を越えられる可能性を感じました。インクルーシブしたイベントに近づけたと考えています。人に何かを伝えたいという想いは社会状況に関係なく普遍であると思えます。そうした人たちが千代田でどのような活動ができるか、千代田の場の使い方を提案していきたいと思えました。

### Q & A



**Q** リアルで活動しづらい中でイベントを行ったことがすばらしいです。オンラインでのやり取りが主流になると耳の不自由な方に対して手話であったり、字幕であったり用意すると伝えやすくなると思います。風景であっても、音を言葉で表現してあげたりできるのではないかと思います。

**A** UDトークは話したことを字幕にしてくれるので、それを標準にして行うのはありだと思います。耳が不自由な方だけではなく、英語など別の言語に翻訳する機能があるので、そうした機能も活用していきたいです。

**Q** 来年が3年目になるが、どのように活動をまとめて、次のステップに進もうと考えていますか。共有したいノウハウを伝えるための冊子やホームページへの掲載など、まとめることも大切だと思います。

**A** 来年は集大成の年となると思います。聖火ランナーのボランティアに応募しているので、パラリンピックの選手や関係者とコミュニケーションをとり、共催を増やして、ノウハウを共有することでサポートが必要な方が参加できるイベントが開催できればと思っています。



# 07

## ちよとも

千代田で楽しくつながり創り  
楽しく/承認しあう/安心の場



【代表者】高橋 孔明 【活動メンバー】9名 【主な活動地域(場所)】千代田区高齢者総合サポートセンター・かがやきプラザ 相談センター

### 活動概要

毎月1回多世代交流の場としてオンラインによるイベントを中心に「ちよとも」を開催し、区内在住者や在勤者に新しいつながりを生む場を提供していく。また、年代・性別・国籍を問わない多世代交流の場を提供するとともに、ちよだにつながる情報も提供します。

### 発表概要

コロナに負けずに強気に攻めていこうと決めて、一年間いろいろなことを試しました。学びの「ちよとも」をやろうと決めて、民間の宇宙飛行士やキャリアコンサルタントを招き、イベントを開催しました。最初の頃は参加者が10人位でしたが、助成金をもらい、広報に協力してもらったおかげでたくさんの方に参加してもらうことができました。コロナの影響でオンラインになったことで、千代田区にいながら宇宙の話が聞くことができ、とても勉強になりました。コロンビアなど海外から参加してくれた方もいました。キャリアコンサルタントを招いた会では、コロナで働き方が大きく変わってきた時代の中で、どんなキャリアが必要なのかを、実際に最先端でキャリア研究をされている先生と学ぶことができました。オンラインで行うことによって、これから何かしたいけど、普段家事で忙しくて参加できないという主婦の方が、手元に携帯を置きながら参加できて、感銘を受けたという感想をいただきました。「幸福と健康を科学的に考える」というテーマや「ハーバードの人生を変える授業」という本を翻訳された先生を招いて、ポジティブな心理学を学びました。オンライン「ちよとも」で分かったことは、たくさんの方が参加できること、専門家の方の話が気軽に聞けることです。オンラインで開催することで、参加者を電子管理することができ、次の回の案内ができるシステムを構築できました。また、助成金を活用してホームページを作成することができました。「ちよとも」のビジョンに沿って進化することができました。オンラインでやることで、オンラインも良いけどやっぱりリアルでつながりたいと思い、日比谷公園を会場にオンラインとオフラインをミックスして何かできないか企画を検討中です。興味がある方はぜひ参加してください。



### Q & A

- Q 講座の一つ一つが魅力的でバラエティに富んでいますが、具体的に千代田のまちづくりとしてどのようにつながっていくのか、テーマの選定はどのように考えていますか。
- A オンラインにすることでさまざまな場所から参加してくれる人が増えていく中で、「ちよとも」でやる意味は何かをメンバーで話し合いました。毎回講座の最初で千代田区がどういった場所かを説明するところから始めています。説明することで、地方に住んでいる方が、千代田区ってそういう場所なのかと興味を持ってもらい、千代田区を広報するような活動として、千代田区について気軽に話せる、知ってもらおうことが、今回の共通したテーマであるという話になりました。

# 08

## 江戸長唄ごひいき衆

三味線の音が響く粋なまちづくり  
長唄をきっかけにつながる、広がる



【代表者】津守 恵子 【活動メンバー】10名 【主な活動地域(場所)】千代田区立九段生涯学習館

### 活動概要

オンライン稽古・リモート合奏のほか、長唄に詠み込まれた情景解説と演奏(江戸の物見遊山、江戸藩邸を探る、駿河台今昔等)の動画作成を行います。また、オンライン講座を配信し、地域交流のきっかけづくりやコロナ禍での魅力発信や観光資源の掘り起こしを模索します。



### 発表概要

長唄を通じて江戸東京の伝統や文化を知る機会、まちに親しむ機会をつくることを目指して活動しています。今日も九段生涯学習館で稽古をしているのでここから発表します。講座や三味線体験の実施、神田明神や千代田区のいろいろな場所、まちの中で演奏することで、地域資源の再発見につなげたいと考えています。コロナの影響で稽古を続けることは難しかったです。緊急事態宣言が発出され、活動場所が閉鎖してしまったため、オンラインで稽古を行いました。解除後はリアルとオンラインを組み合わせ実施しています。「withコロナのもとでのオンラインの活用強化」というのが、今年度の活動のポイントです。イベントが実施できない場合に備えて、動画の撮影と配信に重点を置いて活動してきました。11月に以前からお世話になっている海老原商店で動画を撮影しました。町会に「半纏」を借りて、ポストコロナへの「反転」とかけたテーマで実施しました。動画の最初に地域の紹介とテーマの趣旨説明を入れました。海老原商店の中での演奏の様子を流しつつ、まちと海老原商店の成り立ちを伝えています。神田エリアだけではなく千代田の多様性を示したかったので、九段北にある九段ハウスで撮影をしました。歴史的な洋館を再生させた場所です。YouTubeで配信しているので、関心があれば見てください。二か所の共通点は、歴史ある建造物をリニューアルして現代によみがえらせている点です。広報活動としては、ちよだコミュニティラボライブで活動の説明と動画紹介をしました。また、リアルでのイベントを神田明神で行いました。「タヌキ大学課外授業—タヌキってなんだ? 芸能にみる「タヌキ像」」というテーマで実施しました。三味線はコミュニケーションツール・ボーダーレスだという想いで活動してきました。これからも活動を続けていきたいです。



### Q & A

- Q 動画はグループ内で作成したのでしょうか。
- A 動画の撮影、編集はメンバーが行いました。YouTubeで配信しなければという必要性に駆られて技術を高めていったところ、作成できるメンバーが育ってきました。
- Q 支出を確認したところ外部に委託した様子が無かったので質問しました。自分たちで作成したのはすごいと思います。クオリティが高いので、千代田区の古い建物を歴史と交えて、三味線の音とともに紹介する事業を新たに始めるのかと思いました。音と一緒に話しかけるものがあります。区内を巡回するバスなどで映像を流し、観光名所として紹介してもらおうと良いのではないのでしょうか。
- A 機会があればぜひ挑戦したいです。

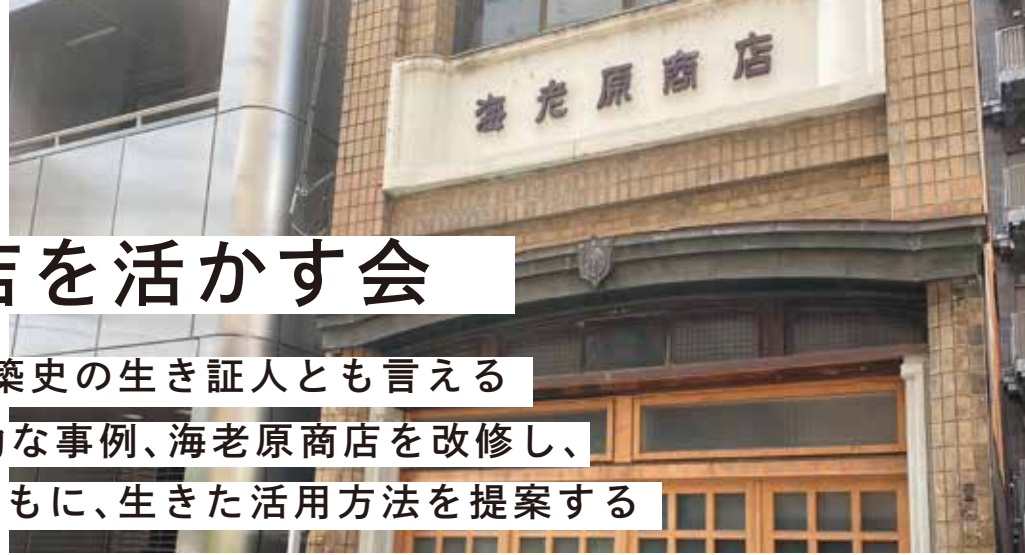


09

## 海老原商店を活かす会

神田に残る、近代建築史の生き証人とも言える「看板建築」の代表的な事例、海老原商店を改修し、長寿命化を図るとともに、生きた活用方法を提案する

【代表者】海老原 義也 【活動メンバー】9名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】海老原商店(神田須田町2丁目)



### 活動概要

海老原商店の保存活用をできるだけ地域を巻き込みながら実践していくことで、看板建築や古民家等のことを多くの人に知ってもらい、地域の歴史文化遺産としてだけでなく、地域活性化の活動拠点となる地域の資源として利用してもらうことで、保存活用の応援者あるいは担い手となっていただけるような活用プログラムの企画・運営をめざしています。



### 発表概要

昨年はコロナの影響ですごく活動が難しい年になったが、できる範囲でいろいろな工夫をしながら活動しました。緊急事態宣言が解除されたときに明治大学の学生さんの内覧勉強会の受け入れなどもしました。

今回で4回目の報告になりますが、徐々に恒例のイベントが増えていたのに、昨年は途切れてしまいました。今年もどうなるかわからないものが多く、苦戦しました。

そうした中、4月4日から19日にかけて展示イベントを行いました。状況がどんどん変化していく中で、感染予防対策を試行錯誤しながら実施しました。Instagramのライブ配信などを利用してギャラリートークとかギャラリーツアーみたいなものを企画して、日本語と英語で配信しました。ほかのギャラリーとか美術館のほとんどが展示を中止していく中で、さまざまな工夫をしながら一生懸命展示をしました。

オープニングイベントは観客を入れずに配信で実施しました。展示もギャラリーツアーという形で行い、来場者は1時間に1名ほどで日に20人以下で実施しました。展示で良かったのは、個人として、海老原商店として、表現を守ることができたことで、この経験は今後も役立つと思っています。

次に、時間がある中で何かできないかということで、今までは千代田区の景観まちづくり重要物件に条例で指定されていたが、それだけではなく景観法に基づく景観重要建造物にも応募申請して、9月に千代田区指定第一号として無事に指定されました。条例から法律への指定になったことで、保存活用への道が広がり、これから申請される方の先例になるという目的も果たせたかなと思います。

今年もコロナによって不透明な状況ですが、一番大きなイベントとして、東京ピエンナーレ2020/2021というプロジェクトの「着替える家」を開催します。ぜひ成功させたい展示で、多くの人に来場してもらえるような社会状況になっていることを願っているし、いろいろな対策をしながら、みんなで協力してやりたいです。

昨年から引き継いだイベントも多いが、今年も引き続き皆さんと一緒にやっていけたらと思っているのでよろしくお願いします。

### Q & A



Q 収入の部分などで困っていることはありますか。

A 去年はイベント会場としての利用がほとんどできず大変でした。実は昨年から今年にかけては新たに、アーティストを招へいして制作するプログラムを取り入れていましたが、コロナの影響で実施できず、収入の面では厳しい状況です。しかし、アフターコロナを考えれば、必ず海老原商店の魅力に気付いて、利用される方が増えていくのではないかと期待しています。

Q 厳しい状況の中でしっかりと対策をして、運営を続けてきたのは、素晴らしいと思います。ほかの助成グループでも、海老原商店を使って活動ができたという報告がありました。本当に感謝したいと思います。今後頑張ってください。

A ほかの展示会場を参考にしながら、本当に試行錯誤でした。展示を維持できたのがうれしかったです。

Q ほかのギャラリーとのつながりみたいなものはできましたか。

A アーツ千代田3331の対応はすごく参考になりました。あとは実際にアーティストの希望を聞くことができ、勉強になりました。ほかには、予約制を早くから導入していたギャラリーに話を聞いて参考にさせていただき、つながりをつくることができました。

■ 大変な一年でしたが、新たに得たものもあると思います。次のステップに期待しています。

10

秋葉原・旧旅館【東館】内

## ちよだニャンとなるCafé

秋葉原に残る昭和20年代の建造物を改修し、千代田区のブランドである「猫」をテーマにしたコミュニティカフェをひらく

【代表者】香取 章子 【活動メンバー】7名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるCafé(外神田4丁目8-12)



### 活動概要

コミュニティスペースで猫をテーマにした各種イベントを実施します。具体的には子どもを対象とした、お話し(猫絵本の読み聞かせ)やワークショップの開催、全国の猫問題の改善に向けての普及啓発の場として、猫に関するセミナーの開催、猫に関するアートの展示、音楽、落語等、定期的な開催でコミュニティの育成を行います。



### 発表概要

コロナの影響で建物としては一年間休館しました。基本的な感染症対策はできますが、猫がいるので対策に限界があります。

4月に完全予約制でお店を再開しました。昨年度はイベントを開催できませんでしたが、その代わりに、以前足を運んでくれたシニアの方に対して、電話での傾聴ボランティアで交流を続けてきました。多くの方が家から出られなくて寂しいとか、誰も話していないということだったので、昔話を聞いたりとか、猫の現在をお話ししたりとか、少しでも元気になってほしいと思い活動してきました。コロナが落ち着いたら、まずはお茶会ということで、交流したいと思います。

カフェとしての活用はできませんでしたが、千代田区の保護猫の活動を続けてきました。猫はボランティアや私たちが交代で世話しています。入場料などの収益は無いですが、家賃の支払いや猫の医療費などが発生するため、クラウドファンディングで資金を集めました。多くの方から支援があり、500万円も集めることができました。これまでも継続的に支援してくれて、なおかつこのクラウドファンディングでも応援してくれた方も多く、拠点となる場所があるのは素晴らしいと改めて実感した一年でした。

この古民家の改築に関しては、建築アドバイザーの方から耐震補強のアドバイスを受けて、設計図を見直し、費用はクラウドファンディングで調達しました。今年は大きな地震もありましたが、何かが倒れたりすることはありませんでした。先生の指導もあり、古民家を改修して良かったと運営してみて改めて実感しました。

3月に新聞の取材が来て、猫の特集として「ちよだニャンとなるCafé」の活動が紹介されました。子ども向けの新聞でしたが、コロナ禍で猫を遺棄する飼い主がいるとか、飼い主が責任を持つことの大事さが記載されており、大人の私たちももっと気を付けなくてはいけないと思いました。記者の方には、香取りで保護された猫を見てもらいました。拠点があることで、猫を看取ることができて、良かったと思いました。

今後の活動について、変異型のコロナの感染が拡大しているの、様子を見ながら運営していきます。近所の人からも「いつ開きますか」とか「頑張ってくださいね」と声を掛けてもらいました。明るい気持ちで頑張っていきたいと思っています。

### Q & A



■ クラウドファンディングについて、目標金額250万円に対して500万円が集まったのはすごいと思いました。デザインが非常に凝っていて、分かりやすくまとまっています。体験談等を、共有してもらえると、資金面に課題を持つグループの助けになると思います。

Q 猫にとって古い建物は住み心地が良いとか、過ごしやすいなどのメリットはありますか。

A 古民家を再生したときに、できるだけ当時の温かみとか優しさを残すことを大切にしました。私たちの目から見ても猫は穏やかに過ごしているように見えます。同じ命がゆったり過ごしているのを見ながら、来てくれたお客さんにも同じような気持ちが伝染して、人も猫も穏やかに過ごせる空間になっていると思います。

■ 自然の素材がたくさん使われていて、猫にやさしいということは人にもやさしいのだと思うし、生き物と一緒に暮らすことの良さも体験できる、素晴らしい拠点だと思います。

Q 地域の方からの声かけの話から、地域に定着しているように感じました。地域の方とのつながりは、どうやって生まれましたか。

A ヨガ教室やお茶会などのイベントを通して知り合いが増えてきました。コロナ禍で直接は会えませんが、電話や手紙でつながり、励まし合える環境があります。インターネットだけの関係ではここまでできないと思います。近隣の方とのつながりは、神田祭に参加したというのが大きかったと思います。神田祭は初参加でしたが、祭りを通して近所づきあいが広がりました。



# 「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム

JR神田駅高架下で創業60年、  
地域に愛され続ける『神田珈琲園』の再生

【代表者】八戸 建 【活動メンバー】10名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】神田珈琲園(鍛冶町2丁目)

## 活動概要

神田珈琲園において「時間と場所の提供」をしています。主に店内の壁面を活用した展示ギャラリーや地域の交流・活動スペースとしての利用、まちの情報発信のHUB的な役割を果たすこと、神田駅周辺の変遷などを学ぶ勉強会、コーヒー豆や焙煎に関する勉強会などを実施します。

## 発表概要

常連さんから昭和のたたずまいが落ち着く空間で気に入っているということで、それを踏襲しつつ新しい建物をどう建てるかというところから活動をスタートしました。2018年に普請部門に応募、工事費の高騰や融資の難しさなど紆余曲折ありましたが、一つ一つハードルをクリアして昨年7月に再開に至りました。クラウドファンディングにも挑戦し、時間はかかりましたが、無事に目標金額を達成できました。

元々使っていたテーブルや椅子を設置すると雰囲気が変わり、より落ち着いた雰囲気になりました。お客さんも「建て替えた感じがしないね」とか「やっぱり落ち着くね」と言ってくれました。クラウドファンディングをきっかけに、活動の応援コメントが多く寄せられて、頑張ろうという気持ちになりました。コロナ禍でお店の再開も正直不安でしたが、待ってくれる人たちがいると、勇気づけられましたし、そうした意味でもチャレンジして良かったなと思います。

クラウドファンディングのリターンとして店内への名前の掲示や焙煎体験のワークショップを用意しました。応援してくれた方と新たな交流も生まれて、ファンも増えました。サンキューセットというお得なメニューも、スタッフから応援してくれた方、地域の皆さんへの感謝の気持ちの表れだと思います。

11月に審査委員会の方の打ち合わせ場所として活用されたのですが、ほかの団体の活用も増えてきています。ちよだ社協の方からも、神田珈琲園を利用できないかと相談を受けました。現在は打ち合わせ場所として定期的に活用されています。

そして、ちよだニヤンとなる会とのコラボとして、常連のお客さんからグッズを製作し、その売り上げを寄付したいとの相談を受け、店頭でグッズを販売しています。二階は、展示スペースとして貸し出しを再開しています。そのほかに店舗の入口に掲示板を設置し、地域の情報誌などを置いています。コーヒーを飲みながらお客さんが読んだり、持ち帰ったりされています。かなり人気があるそうなので、ぜひまちサポの活動グループの皆さんにも活用してほしいと思います。

今後の方針としては、コロナ禍で厳しい状況が続きますが、活動場所とか地域の居場所として、引き続き営業も続けていきます。また、地域のニーズや課題をテーマとしたミニ講座とかワークショップを工夫して開催していきたいです。



## Q & A



■ 拠点の強みを存分に発揮されていて素晴らしいと思いました。やはりコラボの可能性は拠点があるグループが高いと思います。皆さんから、ほかのグループに対してコラボを持ちかけてくれると、広がりが生まれるのではないかと思います。

Q 今後の方針の中で、地域のニーズや課題をテーマとしたワークショップなども開きたいということですが、具体的にどんなニーズや企画があるか教えてください。

A 現在はお店を軌道にのせるのに一生懸命な段階ではありますが、少し余裕ができたところで企画を発信して進めていきたいと思っています。あとはこの場所を皆さんに活用してもらうこともお店にとって効果が大きいので、一緒にコラボしていきたいなと思います。

## 卒業グループ・サポート大賞 受賞グループ紹介

### 江戸長唄ごひいき衆が サポート大賞を受賞！

審査委員会と参加グループの投票により、「江戸長唄ごひいき衆」がサポート大賞に選ばれました。コロナ禍で活動が思うようにならない中、演奏の様子を撮影・編集して動画配信を行うなど、オンラインに対応して活動の幅を広げた点に評価が集まりました。

「江戸長唄ごひいき衆」は、一般部門で三回目の助成を受け、今回で卒業となります。これまで築き上げた成果をもとに、今後のさらなる飛躍に期待しています。



サポート大賞景品



## 【事業協働運営先】

### 一般社団法人

### 千代田まちづくりプラットフォーム

## “（まちプラ）からのお知らせ”

1

まちプラのリーフレットが  
完成しました！

活動内容の周知とまちプラメンバーや応募グループの発掘につなげていきます。



まちプラのリーフレット

2

まちプラ公式ウェブサイト  
立ち上げました！

まちプラの活動報告に加え、助成グループのイベント情報や取材記事等を掲載予定です。

URL  
<https://www.machiplat.or.jp>  
二次元コード▶



3

普請部門の顕彰プレート  
完成間近！

今後、各助成グループと取り付け位置、文言を調整した後設置します。



顕彰プレート





## 審査会委員講評

# Comment



審査会委員  
菊池 洋光

皆さん発表ありがとうございました。私の方から一言ずつ講評させていただきます。まずトナリは、拠点から、どのように街に出て行くかが課題に挙げられると思います。今後は現在の子育て中心の活動から広げてほしいと思います。

M.Alive Placeは学生ならではの仮説、地域ににぎわいを生むことイコール多くの人を呼ぶことではないということを命題に掲げていて、私も感銘を受けました。今後はフィールドの活動と情報発信をどのようにつなげるかが課題かなと思いました。

着替える家実行プロジェクトは、私の思いつきですがこれからの季節、古着で鯉のぼりを作ってみたらおもしろいのではないかなと思いました。地域課題を抱えるムーブメントにどのようにつなげていくかが鍵だと思います。神田でパンダは非常に経営体制がしっかりしていて、警察と行政との連携も非常に上手だと思います。今後も活動を広げてほしいと思います。

スプーンプロジェクトは、SNS を通じたアプローチが少ないかなと思いました。もう少し人を増やす工夫をしてほしいと思います。

グリーンネイバーフッド千代田を目指す会について、自然環境と付き合いイベントはコロナ禍では厳しいと思いますが、今後も継続して頑張ってもらいたいと思います。

ちよともはオンラインのポジティブな側面を生かしていると思います。さまざまな人とつながり、活動の成果も出ているのでこの調子で頑張ってもらいたいと思います。

江戸長唄ごひいき衆は、今回初めて演奏を見たのですが、非常に良かったです。今回で最後の助成となりますが、今後も持続的な活動につなげてほしいと思います。

普請部門の助成グループは、いずれも資金面での課題はあると思いますが、知名度は上がってきていると思いますので、今後も頑張ってもらいたいと思います。私も陰ながら応援しますので、引き続きよろしくをお願いします。



審査会委員  
吉田 渉

発表ありがとうございました。コロナの影響がある中で活動制限があり、皆さんがさまざまな工夫をして活動されていることについて、手前どもについてはイベントを中止したことが多く、非常に深く反省しています。千代田まちづくりサポートの事業についてはグループや組織の助成ではなく活動への助成という形になりますが、先頭に立って引っ張っていくリーダーの負担は多大なものがあると思います。活動を継続していく意味でも先ほどのスプーンプロジェクトの原田代表が話していたとおりだと思いますが、考えてもダメなことは諦めて次に進むことや時には人を頼ることについても継続性の中では必要なことだと思います。さまざまな着想や企画提案によって皆さんが楽しく行えるまちづくりが広がっていくことを今後も期待しています。本日はありがとうございました。



審査会委員  
小野寺 健志

皆さん一年間本当にお疲れさまでした。皆さん一生涯活動されている姿を見て、千代田区に住んでいる区民として本当にありがたいと感謝をしています。今年にはコロナの影響で町会や商店街の行事が中止になっており、こんな時代だからこそ皆さんがこうやってコミュニティの活性化を通じて人々をつなげてくれる、人々はそれで自己体现ができたりします。生活のエネルギーとなる活動をしていて本当に感謝しています。活動の継続についてですが、やはり一度止まったコマを再度動かすのは大変エネルギーがいることなので、助成期間の3年を過ぎた団体については、今後の活動が難しいかもしれませんが、ぜひ継続して頑張ってもらいたいと思います。そのためにも、まちみらい千代田やまちプラを活用してください。



審査会委員  
柿内 健介

皆さんお疲れ様でした。このコロナ禍での活動は大変ご苦労が多かったと思います。それぞれ工夫されていて、大きな成果を出したグループもあると思います。江戸長唄ごひいき衆は、伝統芸能の三味線を通じて地域貢献をされていますが、違う角度で見ると、例えば音楽の違うジャンルの方たちとコラボして一緒にビデオ制作をするとか、コロナが終わった後に一緒にライブなど実現できたら良いと思います。それぞれの団体とつながるきっかけにもなるので、音楽を通じて活動を続けてほしいと思います。また神田でパンダの活動も非常に目を引くところがあり、先ほどご提案したようにいろんなグッズ販売を通じて認証制度なども継続して、地域の貢献のために神田ブランドを広げてほしいと思います。最後に普請部門の皆さん、活動拠点があるため他のグループと違い活動しやすい環境にあり、コロナ禍とはいえ非常に力が入っていて頼もしいと思いますので、他の活動団体とさらに絆を深めてそれを発展してもらえたらと思います。今後も応援していますので頑張ってください。



審査会委員  
朝比奈 ゆり

皆さん長い時間お疲れさまでした。普請部門の3グループを含めて全部で11のグループとお話ができ、とても良い時間を過ごすことができました。私は普段飯田橋にある東京ボランティア市民活動センターという所にいるのですが、昨年から始まったコロナで活動停止中のグループもありますし、これを機に解散をしたという団体をいくつも聞いています。長いこと活動していても、ここで一区切りをつけたいと言って解散してしまった結果なのですが、その中で皆さんは活動を止めることなく続け、発展もした一年だったと思います。それ自体、ものすごいことだと思います。話を聞いていると普請部門の皆さんがとっても明るい表情だったと吉田委員が話していましたが、ほかのはじめて部門の皆さんも含めて、とても充実したお話だったと思います。できないこともたくさんありましたが、自分たちでもう一回問いかけて、皆さん話し合いもしたでしょうし、ご自身でも考える時間がたくさんあったのではないかと思います。なかなかその答えが見つからない中でも、必死でこう考えたという結果が、とても充実した成果を今日発表してくれたのではないかなと思っています。江戸長唄ごひいき衆は今日で卒業になってしまいますが、最後に三味線の生の音を聞きたいなとちょっと思いました。報告の中で卒業した後も何か一緒にまちサポ卒業生というか、まちサポのグループとつながりを続けられないかという提案がいくつもありました。私もすごくそう思います。事務局やまちプラの皆さんが、きつとそういう場を続けていくと思うので、そこでまた皆さんとコロナに負けない、コロナの中でもこんなことができたよというお話ができることを願っています。今日は一日ありがとうございました。



審査会副会長  
奥村 玄

皆さん本当にありがとうございました。改めて驚いたのはテーマの広がりがあるすごく広いということと、バラエティに富んでいるなということです。その中でも特に、子どもとアート、子どもと食事など、子どもたちが関わっているグループがたくさんありました。次の世代にきちんとバトンタッチをする、文化をつないでいくことが、とてもありがたいなと思いました。また、アートがやっぱり多いなと思いました。コロナ禍で最初に痛手を受けたのがアーティストの方たちだと私は解釈しているのですが、それでも「表現の方法をいろいろ模索しながらアートを守ることができた」という非常にインパクトのある一言をいただきました。伝えていく、あるいは表現し続けるという事に本当に感謝したいなと思います。

あとはサポートが必要な方たちの活動をサポートするグリーンネイバーフッド千代田を目指す会の方たちですが、実はサポートしあう関係はコロナ禍でやはり重要になってきていると思っています。とても大事なことをたくさん教わったと思います。

普請部門の方たちはそれぞれその建物のアイデンティティを非常に大事にされていると思いますし、海老原さんはこれからアートをメインテーマにしながら続けていくという事で、その場所のアイデンティティと作品との応答関係というものがあり、これは一般の美術館とはまたちょっと違う、インスタレーションに近いものなのかなと思います。とても楽しみにしています。

神田珈琲園さんのアイデンティティはそこで過ごした記憶で、みんながそこでたくさんの会話をしてたくさんの発見があったりうれしかったり涙があったりして、そういう記憶をこれからもつなげていくことがとても大事なかなと、歴史に支えられている安心感みたいなものもあると思います。

ちよだニャンとなるCaféの古い建物で過ごすその安心感のようなものを猫たちも感じているというお話は、猫の感じるセンサーからいろいろ教わることもあり、そこがすばらしい場になっていることをすごく感じました。皆さんそれぞれ独自の視点で、千代田のまちづくりを生み育てている。そのまちづくりをこれからも育ててもらいたいと思います。今日は本当にすばらしいお話をたくさんありがとうございました。

## 全体講評



審査会会長  
中島 直人

皆さんお疲れ様でした。皆さんの積極的な活動から学ぶことが大きく、今日も本当にいろんなことを知りましたし、考えさせられました。そういう意味ではまちづくりサポートって良いですね。もちろん我々は審査員ではあるのですが、基本的には間接的ながらも皆さんと協働して一緒にまちづくりをやっており、我々と皆さんそれぞれの活動があって、千代田区を良くしよ

うとしている点では、決して講評者と活動者として二分するような立場ではないのだなと思っています。今日の発表でいくつも貴重な言葉や教訓などをもらったし、印象に残っていることがいろいろあるのですが、強いてあげるとすれば、「保育は原理的にアートを内包している」という言葉が印象に残りました。近くの保育園の方からお話を聞いたということ、なるほどと思いましたし、保育っていう概念がすごく大事だなと思いました。それは無償の優しさみたいなものもありますし、人に対する思いやりなどさまざまなことを考えさせられる言葉だなと思いました。皆さんも他のグループの話や審査会委員の言葉からもそういう学びがあったのではないかなと思います。しかし、それぞれいろいろな悩みや喜びがあ

るわけですが、この場において全員で学びを共有すると、もう一つまちづくりの核心というか、まちづくりとは何かを考えることができる。それがまた個々の現場にフィードバックされる、そういう場が成果発表会なのかなと改めて感じました。個々のグループへのコメントはすでに言われたと思いますので、全体についてコメントしますと、まちづくりの形がかなりはっきり見えてきたのかなという気がします。数年前からコラボがまちサポでも明確に行われてきていて、それはまちサポのソフト面での支援もありますが、一方でインフラというか場が、特に普請部門を中心として出来てきている。コラボのためにはまず場がないといけないと思うのですが、その場がまさに普請部門で見えてきている。普請

部門だけではなくプラットフォームということ言えば、ちよどもの活動は、やっぱりインフラなのかなという気がしてきました。要するにその場でありインフラであり、そこにいろんな人が来てコラボレーションして何か生まれるのかなと。それ自身がテーマを持っていいわけですが、もしかしたらテーマではない、フォームやインフラといったものもあるのかなと思いました。一方でそこにもうひとつテーマ型のさまざまな活動があり、本当に豊かなテーマがあって、アートとかデザインとかが増えてきて、まちの文化を新しい視点から掘り起こしていく活動が千代田区ならではの活動として垣間見えています。そこに食とかユニバーサルデザインとか本当に大事なことも千代田区の中

から出てくるんですね。そういうものが先ほど言ったインフラの中でいろいろな反応を起こしてまちを良くするおもしろい活動につながっているのではないかと。その大きなインフラとテーマみたいなものが、うまく重なり合いながら千代田のまちづくりみたいなのが皆さんの活動によってかなり見えてきたなど。また数年すると次の形に変わっていくかもしれないですが、そういうものができてきていて頼もしいなと思いました。それは皆さんの成果です。大変な一年でしたが、活動をきちんと続けられたということは、時間をかけて皆さんと歴代のグループが作り上げてきたインフラとテーマの豊かさが、ある種のレジリエンスを生み出してこの一年を乗り切り、まちづくりが展開されたと思っています。

全体のまちサポの形について、ポジティブな面だけをお話ししましたが、皆さんのおかげでその価値というかまちサポの意義についても改めて考えさせられました。もちろんそこにはいろいろな欠点があった、今日個別には話しましたが、来年もまたすぐ始まるので、少し改良も加えながらさらにこのまちサポを展開させていきたいと私自身も思っていますので、ぜひ今回三回目の方はちょっとテーマを変えて、またほかの皆さんにも参加していただいて、これからも千代田のまちを良くしていく活動を一緒に展開していけたら嬉しいと思います。本当に皆さんお疲れ様でした。そしてこれからもよろしくお願い致します。



# Map

## 活動マップ



02  
M. Alive Place  
(神田エリア)



01  
トナリ  
(アーツ千代田3331)

10  
秋葉原・旧旅館【東館】内  
ちよだニャンとなるCafé  
(外神田4丁目)



08  
江戸長唄ごひいき衆  
(千代田区立九段生涯学習館)



05  
スプーン・プロジェクト  
(インド大使館など)



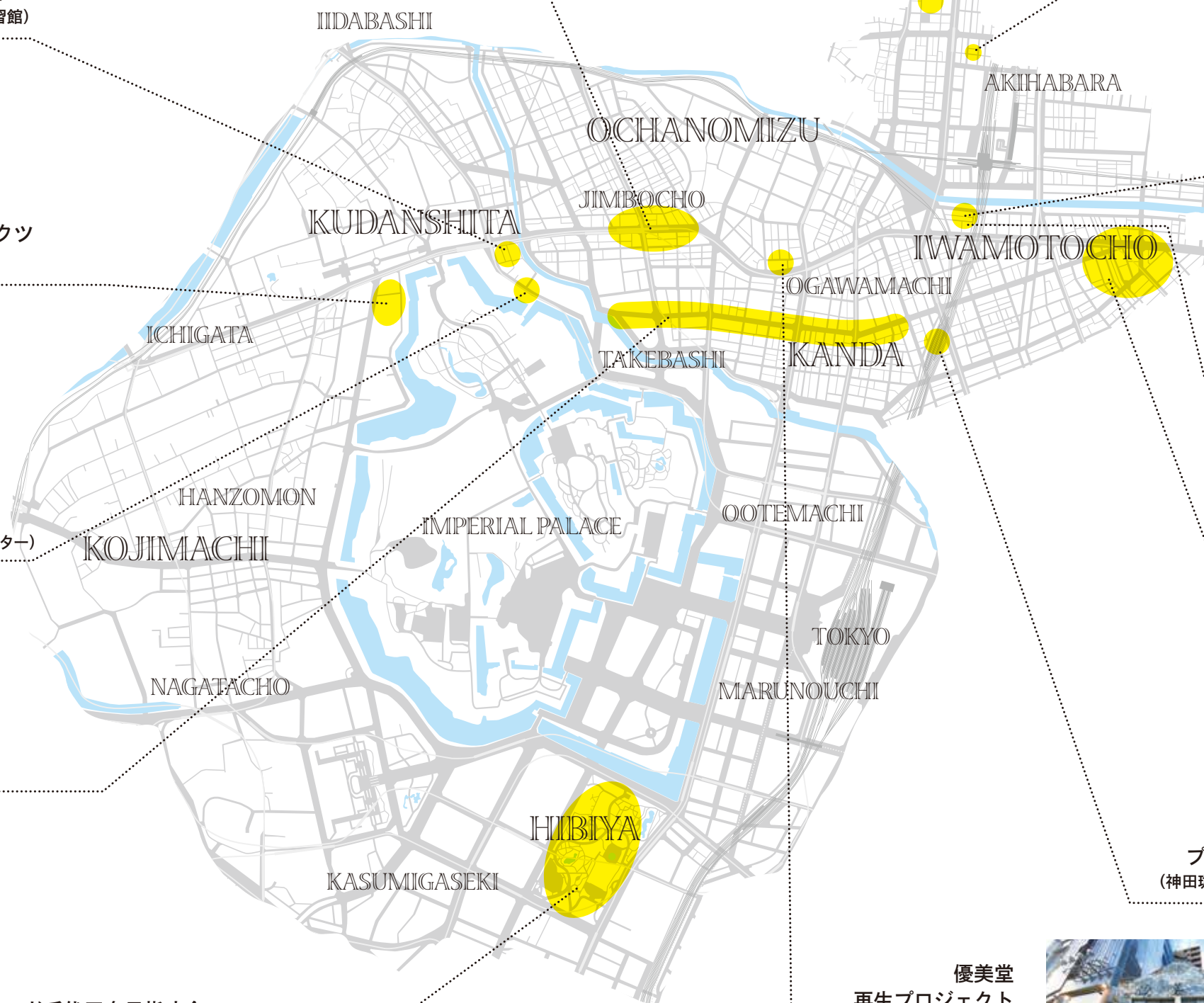
07  
ちよとも  
(千代田区高齢者  
総合サポートセンター・  
かがやきプラザ 相談センター)



04  
神田でパンダ  
(神田錦町キンキン広場、  
神田警察通りなど)



06  
グリーンネイバーフッド千代田を目指す会  
(日比谷公園など)



03  
「着がえる家」  
実行委員会  
(海老原商店  
[神田須田町2丁目])



09  
海老原商店を  
活かす会  
(海老原商店  
[神田須田町2丁目])



ドコヒロ隊  
(千代田区全域)



11  
「神田珈琲園」再生  
プロジェクトチーム  
(神田珈琲園【鍛冶町2丁目】)



優美堂  
再生プロジェクト  
実行委員会  
(優美堂[神田小川町2丁目])

